



すみきり  
建

伊地知文庫  
文庫20  
341  
1





文庫20  
341  
1



人





宗儀序

此集と撰りたる孤屋野坡の牛らハ草一り芭蕉の平  
 一りハ一り瓦の窓とひらき心か水とくこころり  
 ナリよりその文字の野風をよけこころる事也 手ね  
 ゆり冬この、ゆきまゆる花の二三子をよけ  
 大柳より一葉をぬく寸巻とれよとにほり  
 東人の手毫とすといへば、東もさうんごまのち著  
 一糖のさややうとて、上よとて、横よとて、一つ

金房のね乃古はよをばとまよりよらひいつ  
 ち乃ららっ月よ入はくもつるこのかきりめ  
 そのの足一統のすりもたるとやこれとて、はの  
 日乃一とつりより秋乃月一しからかぬ中り  
 や吟流り篇よりて竟よけつらこのこまね  
 わつとんことをひらきみるし有色の花をあや  
 ねこむれとよくわくはのあやよりなご  
 孤号とかく日信一詩の義よる五州のこま







俳諧炭俵集上卷

芭蕉



むらういこのつと日乃出る山流る  
 まくしり姫子乃啼く多は  
 成夢情と去のてまきこわ分て  
 上乃多わわしあうるま乃五  
 雪乃内ほくこせしう乃空  
 花越まゐりあまのはぬくか  
 野坡 全 芭蕉 全 野坡

つらつ柔ゆるさるうわいわ久は  
 娘を笑し人しあはゆのぬ  
 ちあゐうよひおたうしる細き  
 こもくもるあめ 六月  
 顔けつらみうあけや白はる  
 月といとあはれか袋あつる  
 砂音尻乃お物と押へあけ  
 えはゆれさうりさうらあ 月  
 野坡 芭蕉 野坡 芭蕉 野坡 芭蕉 野坡 芭蕉



右  
七ノ下ノ糸糸下地 来リ見 野坡  
家正おもしろし 居合ひとぬふ 芭蕉  
町並若流らりと 碎て糸乃路 野坡  
門し押流し 玉生る念佛 芭蕉  
東風よは 舞衣いふれと 呪言し 今  
糸を流らすは 眺おけり 野坡  
江戸若尾右むら 糸亭に 芭蕉  
とせは 糸のいねど 野坡

方しりー 糸若尾の 糸若尾 芭蕉  
相若尾高く 月は 野坡  
門あめして 糸乃て 芭蕉  
糸乃て 糸乃て 野坡  
糸乃て 糸乃て 野坡  
糸乃て 糸乃て 野坡  
糸乃て 糸乃て 野坡  
糸乃て 糸乃て 野坡  
糸乃て 糸乃て 野坡  
糸乃て 糸乃て 野坡



ココロの魂を東乃方より定むるあり

野坡

美しき山ありてその

芭蕉

子よ啼き一丸して空をうたむ

野坡

未だ知る言乃をいれぬ

芭蕉

院へ去る知れずとて

野坡

尋ね乃降りてみゆ

芭蕉



三吟

山嵐雪

風好なる還織々わあはし

あこみや昔より蒼 結 多ある

行るや香乃小坂若うすありて

外をばうくく大園小お撲場

海くと翔日ふふ乃雲とそり月

又指ちる 咄筋もお生にゆる

利牛

野坂

嵐雪

利牛

野坂

浪濤をち不流り乃そは

あちこち流れえ登又んうさう

海う 昔の娘を呼り其流

てくく ー とも哭えるうわわ

黒谷乃ちちや思懐 籠 後 後

五百のうちを二流にんわ

細めうさあいがあはるまう

人あんとわらぬお思むく

嵐

利牛

野坂

嵐雪

利牛

野坂

嵐雪

利牛



報後乃鞠を下せり月を

野坡

服中下す草をあら月

岩音

漸と雨降りやしてあさの風

利牛

影をみくハ又新ら

野坡

若  
草を乃丸くハ不能に量りて

岩音

抱抱り子乃小深を以て

利牛

くくしとけ内乃荷担送り

野坡

心みく海著果せん

岩音

壻の爲に娘果世と成りてわ

利牛

ことハ乃丸くけりも

野坡

遠仙乃而ふは之を

岩音

比ういわい乃小多

利牛

黍果粒も跡に因り

野坡

多携乃喧嘩乃詠り

岩音

少をさし江戸て人

利牛

今より庄や若らハ海

野坡

野坡



ウ  
賣子うらうつてみせりた大し女は

片吉

うらわくとゆふのあもあし

利牛

鐘倉乃ほきくせくまうほく

野坡

うしとまらる志きぬあ引

嵐吉

結あら母をほくせくまの強

利牛

うらうらうらうらうら月乃 降

野坡



水川子  
おふし

孤屋

空豆乃あはれあはれなるまの縁  
 空乃多鶴あはれあはれ海川  
 上張を過さぬ縁と乃向降て  
 了つと乃そけり酒名家中  
 空後あはれ誰もねて居ぬ空あはれ月  
 とつわと縁乃そりあはれあはれと

芭蕉  
 芭蕉  
 利牛  
 孤屋

おわしは新乃下もわあし  
 空乃仕事乃工是はあはれあはれ  
 姉はよいあはれあはれあはれあはれ  
 信都あはれあはれあはれあはれあはれ  
 風あはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 家のあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 能汁わあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 空あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

孤屋  
 芭蕉  
 利牛  
 芭蕉  
 孤屋



此乃其ハとうやう名若福<sup>利</sup>亭  
 うれし一極を今に非し  
 電乃法以さうしあや駭自  
 ふし丸くても乃おもひあ  
 不<sup>素</sup>聖なる海と中乃あるる  
 とつち極を色とよへあし  
 流中若りううにわらふら  
 黒水はきししうかひを  
 利牛 芭蕉 松屋 芭蕉 松屋 芭蕉 松屋 芭蕉 松屋

若者すくはすんて極を  
 空を送りく極を 松屋  
 今乃すくは乃名法と極を  
 手す其はんとと極を  
 息其りし極を乃きく乃  
 堪ふなりぬ 七文乃照り  
 名月若すくは今をなす  
 けしししりて荷ぬ 松屋







百韻

利牛

ふり裸又をてこまて又若ふ  
 岩のいそら力志白の 笑  
 るあふ珠散急鳩の鳴りて  
 方町よわむふ舞う舞  
 竿竹の葉多しの鐘大なりうま  
 るう勢れてあやしく人あ

野坡  
 孤屋  
 利牛  
 野坡  
 孤屋

さる乃月于葉るあ汁あく此  
 掃と流くく 標らあく  
 ぐうふ乃中てよわ出はる海あ  
 坊とやまれどやまに平に  
 松原やま川へとりれく海の中  
 吹くし 豚とつつき園てあ  
 十二三并乃衣あ乃あうらひ  
 本堂はけらるるくそん

利牛  
 野坡  
 孤屋  
 利牛  
 野坡  
 孤屋  
 野坡

利牛

野坡



口乃あゝる方とあゝるむ竹乃と  
只奇勲應はく口すくく  
幽江路乃くく君夜をせ物と  
天々乃の御よくく。月乃照  
生イキ乃くく赤乃折乃ひくく  
操乃実乃落乃白乃御乃くく  
茅乃実乃房乃連乃立乃本乃のわ  
此乃信乃く乃乃人乃くく  
孤屋 利牛 野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋

ほ乃ことく口乃乃の御乃 出  
ほ乃くく乃くく乃乃乃乃乃  
乃の袖を振てみ乃くく乃乃乃  
糸乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 緑  
乃くく乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 大早  
切乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 鹿屋

鹿屋

鹿屋



癩 甲を大さくして、  
 煮てすり大なる粒乃重しき  
 つまみぬる名をいへ、  
 とわわの表をぬき并乃中  
 ぬれ若月横より負ふ右極  
 さいきなり昔やんあまのつと  
 戸てうらみし風名乃重し  
 利牛 野坡 孤屋 野坡 利牛 野坡 孤屋 野坡 利牛

成遠に概と檢乃すこあひて  
 赤い小文をあつて  
 漢を宿名男乃序をいへ  
 師を比丘尼乃洞乃  
 解梅乃印をぬき賞うして  
 天満甲の如きふたれ  
 度袖をふくむる  
 むし記行して  
 利牛 野坡 孤屋 野坡 利牛 野坡 孤屋 野坡 利牛



燃志はるる<sup>ニ</sup>新を尻に拵く<sup>ニ</sup>  
 甲五五乃乃<sup>ニ</sup>わまは<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>  
 自新にかき<sup>ニ</sup>安ん<sup>ニ</sup>城乃<sup>ニ</sup>徒<sup>ニ</sup>わ  
 活才<sup>ニ</sup>高<sup>ニ</sup>海<sup>ニ</sup>原<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>海<sup>ニ</sup> 極  
 積<sup>ニ</sup>嶋<sup>ニ</sup>能<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>こ<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>底<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>起<sup>ニ</sup>り  
 小<sup>ニ</sup>登<sup>ニ</sup> 是<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup> 靜<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>  
 極<sup>ニ</sup>勢<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>睡<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup> 是<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>し<sup>ニ</sup>  
 福<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>結<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>け<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>念<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>み<sup>ニ</sup>

野坡

孤屋

利牛

孤屋

野坡

利牛

孤屋

野坡

素<sup>ニ</sup>初<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>福<sup>ニ</sup>地<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>海<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>余<sup>ニ</sup> 玩  
 羨<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup> 新<sup>ニ</sup>政<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> 羊  
 物<sup>ニ</sup>毎<sup>ニ</sup>由<sup>ニ</sup>不<sup>ニ</sup>持<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>  
 又<sup>ニ</sup>此<sup>ニ</sup>高<sup>ニ</sup>才<sup>ニ</sup>古<sup>ニ</sup>名<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>し<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>  
 故<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>才<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>へ<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>玩  
 今<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>新<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>わ<sup>ニ</sup>わ<sup>ニ</sup>  
 海<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>才<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup> 初<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>改<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>  
 一<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup> 結<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup> 一<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup> 結<sup>ニ</sup>

利牛

孤屋

野坡

利牛

孤屋

野坡

利牛

孤屋

無上

無上



野坡 新乃月  
 利牛 新安の山  
 孤屋 三ツカを登りて  
 野坡 又たのみて  
 利牛 かくはまた中  
 孤屋 入る人  
 野坡 才らうに  
 利牛 此又おの

孤屋 ぼやこ  
 野坡 ぬる  
 利牛 泉乃  
 孤屋 尻  
 野坡 ぬら  
 利牛 入  
 孤屋 概  
 野坡 多

野坡



君  
 大なるあざむくに知の砂乃として  
 何年とま 抱しきぬ栢の末  
 美とまにら 日心乃あまを絶  
 丸の十の 湯成わのしるふ  
 扱赤もさうまをたつてし  
 足乃の 茶祭より供にま  
 里辭と 俵に 乃がうつあし  
 やさうもの 乃 乃 乃 乃 乃

利牛 孤屋 野坡 利牛 孤屋 野坡 利牛 孤屋

丁一亭に仙履儀乃に  
 祈禱の 汝として 出にたる  
 夕月に 勢若くは 乃をま  
 色して 乃乃 やまもの  
 定<sup>名</sup> 乃を 今年 乃 乃 乃  
 もと 乃 乃 乃 乃 乃

野坡 孤屋 野坡 利牛 孤屋 野坡 利牛 孤屋







春之部 發句

五言

芭蕉木乃葉えや修築若知便  
 東山やちりつ産とつけうけわね  
 みるのくそくふ家知ん家の海を  
 春也祝ふ母波はる原も海とて  
 カハレ候もつるし今節のま

芭蕉  
 湯子  
 松尾  
 去來  
 正春

いろうしきをを菴乃かきとる  
 喰つとや木竹乃くちの柳物  
 移いさき門境はるのよ鏡に  
 月下にも中も何や春の向空  
 幼り朝のぬきとつるまきえや  
 春柳の親乃あつて来る流のまは

大後 酒堂  
 浄水  
 沽圃  
 孤屋  
 新守  
 野坡



梅

梅一葉ついでし草乃比ぬうらな

露沾

むめ咲や何所枕木もよきさくら

曲懸

むめさきの節にうらなをそひり

支考

忘乃うらな

むめさくらもよきさくら

甲斐  
土井

梅はむめさきの節にうらなをそひり

新中

赤みうらなをよきさくら

遊刀

みめさくらもよきさくら

野破

め梅もよきさくら

杉風

おのころのうらな

とよきさくらもよきさくら

昔年

とよきさくらもよきさくら

野坡

うちむれしめさくらもよきさくら

仙杖



流下乃之

勝舟一之つもわく

去来

大くや 殊乃 出し 土山 縣内

傍 大野

かほり内き

仙花

原川乃

右開市也

折牛

十五り

大坂 之石

猪乃 遊初

野坡

好く

其角

寫

うん

嵐雪

きり

其角

うん

桃溪



うゑにや門をたふし豆熟 野坡  
管ふらふらふらふらふらふら 新牛

柳

こおちをもつらして柳一 柳家 湖春  
障ふどし月乃大少ひうは 柳家 春  
わ人あちをわしてとくし柳家 野坡

せきまの乃尾を見付く柳一 一風  
町大ゆくきくし宿まら柳家 利牛  
傘に押わらみく柳家 芭蕉

椿

土とくぬ籬よりちね色椿 孤塵  
枝もくゆぬおを椿 湖春  
念入して冬くくつほむ椿 曲翠



猿子いさぎやみせてあつそよ  
 嵐雪  
 ちのちも終つ家路乃赤松  
 支考  
 ちむ移除さくち移あけら  
 野坡

志

ころいあえんまわ侍しりんて  
 幕子けつふおのさるふうこ乃  
 まうはあし(たわりりまうこ)

ころねえをたのし

河のさきろろちぬあんな  
 芭蕉  
 ころい(やゆじ)あんなら  
 松風  
 うらくとあしハあえん乃るま  
 大州  
 けい(い)乃か(り)乃及(る)  
 あん(り)乃り(て)  
 中下もくれあえ乃あんな  
 赤松  
 ちちあ(あ)き(い)ら(を)実あ(る)せ  
 去来  
 朝(あ)し(ら)乃(を)行(は)す(や)店(の)あ  
 孤屋







上己

弟は川乃方より子外 沾法

昼より暮る也乃一之推乃糸 推隄

ふつき乃糸乃いしきう其の難 其角

畧乃乃乃肝を居るもひのまは <sup>この</sup> 此作

日中終をてれてまゝ也船の糸 那岐

麻乃種毎車踏多 推乃算 利年

最良也乃乃島くむ乃糸 瓜屋

と柳乃派よりきこし塩子ま 芭蕉

新しうら

流つゆり命赤くむ小あゆみ <sup>筑城田支</sup> 乃有

まゆ也吹乃葉つゝぬるぬ乃流 芭蕉

あはれつゝ一の葉也ふとむ 子冊

ほろくとふ焼門乃つとふ糸 三徳







夏朝之蘇句

首夏

垣うを乃素ほり見し衣之  
 衣う十口をやくもあけくわ  
 綿をぬく揚ぬせりし衣之  
 雀ふわやれきゆやえん  
 まふ乃ぬけとんよほりのあかりま  

 嵐鳥  
 野坡  
 九節  
 雪芝  
 子母

麻知乃暖の屋白し  
 衣之  
 利牛

う乃果

卯さるあやうきねる及ぶ  
 う乃を果の結る大し  
 去来  
 芭蕉

新なり

う乃を果に其るもの  
 許六



卯さるふに扣ありて花かゝるうし

之考

卯さるふ

掉乃欲とやう清く下うあ

湖春

藍家祇池り世あるやうあ

素堂

うらむしや竹さる子露に老を晴

芭蕉

郭云

空すてちう階にねるほほむら

柳原

ほしきれつ二も階のあやうあ

其角

初燈を月さるおんえほむら

嵐雪

挑灯の空に冷たしほほむら

杉風

まゝなれてもあはれもつわほほむら

芭蕉

青い雲やみさるう〜やうあ観

素龍







端午

六月五日午にけりる小人乳  
 さうゆきくみえはつきり風の色  
 五つとふふみふふあやめふふ  
 文もたふく口よもふし 糺 女犯  
 みを乃やち首乃中りくろ甲た道  
 飛子とふとふくぬふふふ 糺 女犯  
 甚角  
 酒堂大坂  
 柘隣  
 嵐雪  
 仙花  
 素枝

夏旅

昔松をみくくして町乃あけけり  
 枯はふふく屋とふあつし 足乃あ  
 二ふふふ 糺 女犯  
 ちげふ乃力及えぬあけけり  
 ちうつ比やふ括もふふふ  
 けりハけりけりけり

糺  
 新庄  
 高町  
 猿雛  
 芭蕉







さしむは浮御えう一乃ほこく

去来

夕ぞみあふまき石に乃ほくく

野坡

三、自そんほくしすむく

素堂

巧

精や定ふれえんあむく

松風

一室中むくわ破きすく

三美

世乃中也自冥昌乃く

星来

よし妙りくうてわたもき

嵐雪

本多録く

やまゆきも巴きあむ

詩云

ひくくほわぬ時く

智月

ちへんや人もすく

小根

峰乃めをほまほせよ

し引

あらし早んゆきこ

み竹

そみく

仙花



一いそれ燭もうらりてわつたふ  
 かりたる 喉うらりてふあふふ  
 猪乃二牙にり本うらりてふあふふ  
 園美 伝所乃 あつていふな  
 けうとふち 舞うらりてふあふふ  
 一技り つけたふ 竹うらりてふあふふ  
 竹うらりてふあふふ 甚うらりてふあふふ

楚舟  
 この  
 残香  
 みる  
 風  
 祐甫  
 仙花  
 嵐雪

まゝ人 世うらりてふあふふ  
 けうとふち 舞うらりてふあふふ  
 一技り つけたふ 竹うらりてふあふふ  
 竹うらりてふあふふ 甚うらりてふあふふ

改し酒うらりてふあふふ  
 利牛

行中をねてふあふふ  
 野坡



